

「発掘って地道にコツコツ掘り続けるのだからけど、実際はどのようになっているのだろう」と思っている人はたくさんいるはずですよ。作業員の皆さんが、調査現場から一連の流れをお届けします。

発掘 入門講座



土の色や質の違いから、自然のままの土と人の手が加えられた土（堀を埋めたてた土）を見極めます



表面を覆っている土（表土）を掘っていきます。平らにカンナをかけるように仕上げます



調査区は水平、垂直に、無駄な物がないように整えます。こうすることで遺跡の姿が浮かび上がります



写真や図面を作成して遺跡を記録します。今後も検証可能なように、多くの情報を正確に書き留めます



発掘のはてな

堀や柱の跡などはどうして分かるの？

土の色や質の違いから判断します。発掘作業中は常に土の観察を続け、小さな情報を見逃さずに進めていきます

機械は使わないの？

地表から浅い面など部分的には使いますが、基本は手作業です。出土した破片などを見逃さず傷つけないため、土の変化をじっくり見るためです

「どうして手作業なんだろう」「土器や宝物が出てこなかったら」など素朴な疑問に答えます

どうしてきれいに削るの？

遺跡の細かなところまで見て、正確な情報を得るためです。記録写真や史料としても残していくので、後世にしっかり受け継ぐことができます

何も出てこなかったら？

出てこなくても、その状況を記録します。何もなかったことが貴重な情報だからです。今後の重要な史料になり、発掘での価値ある成果の一つです